

# 刀の生産地を比較 ～備前とその他の地域～

松田 幸太  
行部 啓太  
片山 拓也  
高倉 玄誠  
平松 訓明

岡山県立倉敷天城高等学校

## 研究動機

自分たちの住んでいる地域には有名な刀作りの歴史がある。そこで、備前刀は全国の刀剣と何が違うのか明らかにしたい。

## 序論

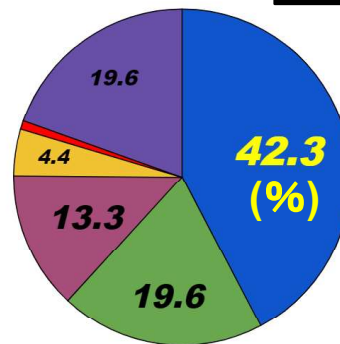
日本刀のうち備前刀は

**国宝** 47/111 振

**重要文化財** 289/699 振

と、かなりの量を占めている。

## 国宝・重要文化財の産地の割合

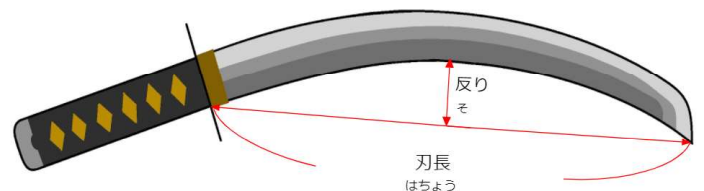


- 備前(岡山)
- 山城(京都)
- 相模(神奈川)
- 大和(奈良)
- 美濃(岐阜)
- その他

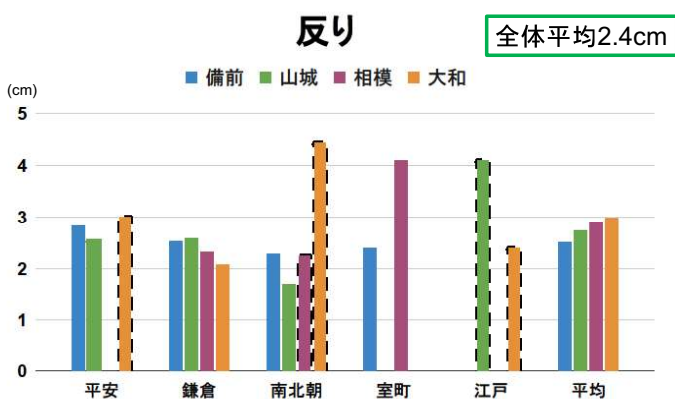
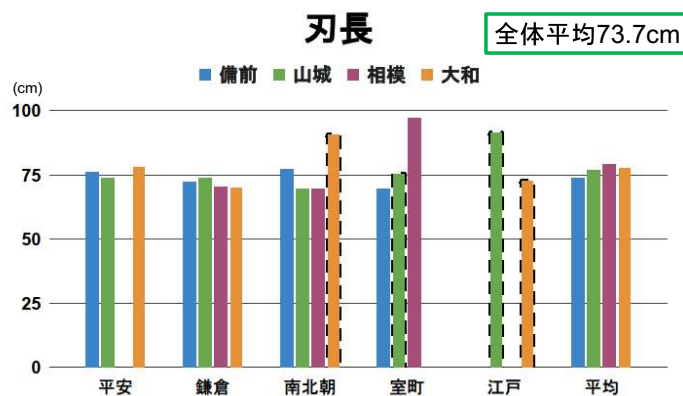
## 調査の手順

文化庁「**国指定文化財等データベース**」の資料から**国宝・重要文化財**に指定されている刀剣の**刃長**、**反り**の数値を調査する。得られたデータを基に特徴などを考察する

## 刀剣の部位の名称



これから提示するグラフは  
文化庁データベースを  
基に作成したものです



## グラフから読み取れたこと ①

備前の平均とそれぞれの時代の数値を比べてみると差が少ない

## グラフから読み取れたこと ②

刃長と反りの全体の平均値と  
備前の平均値が一番近い

## 考察 ①

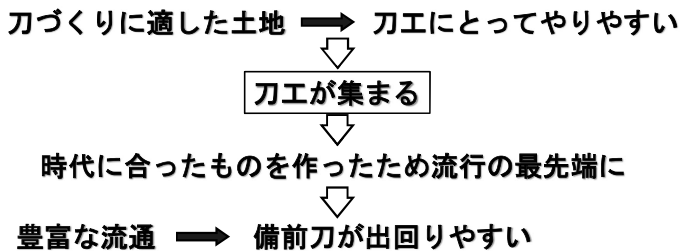
戦闘用のものは消費が激しいので、国宝や重要文化財に登録されているものは、**美術品として**の**もの**が多い。備前付近では戦闘が少なく、使われる機会が少なかった。また、備前の刀が平均的な値をとるのは、備前の刀工は常に**日本刀**の**最先端**の流行を作ってきたも分かった。

## 考察 ②

備前は、刀剣づくりに適した地域で、**真砂砂鉄**、**赤目砂鉄**などの原料や、川などの**運搬ルート**が豊富にあり、刀の流通や原料の流入をしやすかったことも影響していたのに加え、都から運搬に適した距離のため、備前では特に盛んに刀剣づくりが行われていたと推測できる。

## 結論

### 備前が繁栄した要因



## 考察 ③

時代によって**戦闘スタイル**は**白兵戦**から**騎馬戦**へ変わっていく。それは、刀に新たな需要ができて、**刃長**や**反り**の**変化**が生じることであるので、その影響が美術品としての評価にも及んでいると考察できる。

## 今後の課題

- ・ 刃紋や鰐(つば)などの観点から、備前刀の特徴を見つける。
- ・ 短刀、大太刀などの重要文化財、国宝の刀についても数値化してみ、比べてみる。

## 参考文献

- 文化庁 国指定文化財等データベース<https://kunishitei.bunka.go.jp/>
- 刀剣ワールド<https://www.touken-world.jp/>
- 名刀幻想辞典<https://meitou.info/index.php/>
- 備前刀剣王国, 佐野美術館・刀剣博物館 (2016)
- 備前刀-日本刀の王者-, 岡山県立博物館 (2017)
- 文化庁監修『国宝』8 工芸品Ⅲ 刀剣, 毎日新聞社, (1984)

## 謝辞

日本美術刀剣保存協会 岡山県支部長

小池 哲さん

本研究において貴重なお話を

ありがとうございました

ありがとうございました